

ハーモニー

令和4年
10月発行
No.17

男女共同参画標語優秀作品の紹介

令和4年8月に、男女共同参画標語を募集しました。
134点の応募の中から、優秀作品をご紹介します。

まずは自分
歩み寄る一歩
その勇氣
K

素敵な作品がいっぱい！
みなさん、ご応募ありがとうございました。

女（ひと）と男（ひと）
感謝と笑顔 参画社会
まる子

豊かな暮らしの原点
笑顔と互いの
助け”愛”
ピクトリー

築きあう
仕事も社会も
男女平等
O

支えあい
地域とつながり
長生き時代
T・S

男女共同参画ってなあに？

新聞に—「私もリーダーに」一歩を後押し— という見出しで「女性のリーダーシップ教育」について徳島県の女性や若者の人材発掘や育成をする取り組みが掲載されていた。

そこでは議論を重視し、講師の話を受け、どう思うのかじっくり向き合う。互いの意見を尊重し否定しない。参加者は、言わなければ自分のもやもやは伝わらないと気付く。遠かった社会課題が自分ごととなり解決に向け動き出すリーダーの振る舞いが身につくようだ。

この起業塾の創設者笠井誉子さんは、潜在力があるのに「どうせ私なんて」と与えられた環境の中で生きている女性が多いと感じ、学ぶ機会を作れば、みんなが未来への危機感を自分ごととして考え、動く必要を感じるのでは—と思い設立したようだ。

「地方の女性たちの可能性を引き出したい」その想いが多くの女性に伝わってほしいと思う。このような「女性が足を一歩踏み出すために、自ら考え行動できるような取り組み」が、課題が多い男女共同参画推進に大きな力となるように願う。



シトラスリボンプロジェクトinいせさきとは

シトラスリボンプロジェクトinいせさき事務局長の石原明美さんにお話をうかがいました。

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛県の有志が始めたプロジェクトを目にした大河内友梨さんが中心となって始まったシトラスリボン作り。

その想いは「ただいま、おかえりと言い合えるまちに みんなで広げよう思いやりの輪～」困っていたり苦しんでいたたり悲しんでいる人がいたら、そっと手をさしのべて 寄り添ってあげてほしい。まるでお母さんのように、優しく思いやりの気持ちがあふれる社会になってくれますように。

その活動は多岐にわたり、図書館で展示会を開催、たかさき、前橋のプロジェクト立ち上げに協力、紙芝居を作成、県議会議員30名・県職員5000個・伊勢崎市職員3500個のリボンを配るなどの活動を精力的に行っています。

また子供たちに向けて「コロナがおしえてくれたこと」さべつってなんだろう？の紙芝居をYouTubeで公開しています。

今その活動は一時より縮小していますが、石原さんが開催する音楽イベントなどを通して、コロナ差別だけにとどまらず、そのほか様々な差別やいじめについても立ち止まって考え、手を取り合っていけるような社会になるように働きかけていく。と明るく話された。その明るい笑顔を見て、応援したいと強く思った。

写真はメンバーの皆さん(左)
石原明美さん Facebookより



会員募集



いせさき 女(ひと)と男(ひと) ハーモニー・ネットの会員を随時募集しています。
興味がある方は下記の事務局にお問い合わせください。

問い合わせ：伊勢崎市役所市民部人権課男女共同参画係 ☎27-2730(直通)